

Uwasamon うわさもん



益城の若もんも、がまだしょっぱい!

町でうわさの若者を紹介。
夢に向かって全力で進む若者を応援します。

頑張っているもの

バレエ(クラシック)

ほんだまゆこ
名前 **本多真佑子** さん(22)

行政区 **広崎4町内**

バレエ シャンブルウエスト所属(東京都八王子市)
主な出演舞台 ●春と秋の定期公演会(「くるみ割り人形」でソリストを踊る)●日本唯一の野外公演「清里フィールドバレエ」(山梨県清里高原)●文化庁芸術事業の学校巡回公演など



公演前の団員と真佑子さん(写真右)

「もっと友達をつくりたい」と、近所のバレエ教室に通っていた本多真佑子さん。現在、東京にあるバレエシヤンプルウエスト(今村博明代表)に所属し、バレエダンサーとして日々研鑽を積んでいる。

バレエとの出会いは6歳の時。初めて見た舞台を前に「まるでおとぎ話の世界でした」と真佑子さんは笑みをこぼす。

「高校卒業までの6年間は放課後すぐにレッスン。夜の11時頃帰宅して学校の勉強。翌朝は課外授業を受ける、という毎日でした」と学生時代を振り返る。「卒業後はプロになると決めていました」と続けた。「プロになる」という不透明な道を見据えた真佑子さん。そんな娘の挑戦に母真佑子さんは「不安もありました。ですがバレエへの情熱と、ひたすら努力を重ねる姿を見ていたので、迷わず背中を押してあげました」と目を細めた。

家族の応援を受け、18歳でバレエ団に合格。希望を胸に単身上京した真佑子さんだったが、想像を超えるレッスンとリハーサルの毎日に数多くの挫折も味わう。

「それを乗り越えたからこそ今がある。ありがたい試練だった」と成長を感じつつも。「今はすごく充実しています。舞台上でライトを全身に浴び、観てくださった人から拍手をいただく。感動を伝えることができた」と心が震えます」と喜びを語る。

「もっと経験を積んで、たくさんの人にバレエを楽しんでもらいたい。指導者になって、いつか熊本で野外公演を実現したい」と夢を語る真佑子さんは、今日もまぶしい舞台上で華やかに舞い続ける。

問い合わせ先 役場秘書広報課広報係 ☎ 286-3111 / ☎ 203 ☎ 286-4523 ✉ kouhou@town.mashiki.lg.jp